

《宇都宮大学との共同研究》次期候補地選定にあたり

昨年12月24日に、塩谷広域圏内の次期ごみ処理施設候補町が高根沢町に決定されました。

私ども、共同研究プロジェクト・チームでは今後も地域住民との関わりを重要視し、次期候補地選定にあたり客観性を持った資料を提供していきたいと思っています。



▲宇都宮大学 北島滋副学長

これからの調査・研究

地 質



▲宇都宮大学 酒井豊三郎教授

今後のごみ処理施設には、より高度で厳密な処理が求められるため、構造物（施設）の重量は増加します。重い構造物を長期間安定に保つためには、断層など構造的に不安定な場所はもちろん、軟弱地盤や地盤沈下の恐れがある場所も避ける必要があります。均質で十分な支持力が期待できる地質について調査・研究を実施していきます。



周辺状況の留意事項

- 道路状況（搬入路の確保・搬送距離・交通渋滞）
- 騒音、振動、悪臭対策
- ごみ量、ごみ質での状況変化における対応

地 形

ごみ処理施設は、収集・中間処理（再利用を含む）・最終処分という全体的流れを見ながら検討する必要があります。中間処理にも様々な形態・方法がありますので、このような流れを考慮しつつ、環境に優しく地域の活性化に寄与する方法について、工学的観点から検討していきます。また、施設の設置に伴う周辺環境への影響に関しては、地盤の強さ、河川・地下水分布、地形起伏、道路網とその交通量、土地利用状況と密接に関係しますので、これらのことを考慮して位置選定の研究を実施していきます。



▲宇都宮大学 今泉繁良教授